

平成20年度公立森町病院事業計画

今、まさに 病院冬の時代

新臨床研修医制度の開始、度重なる診療報酬のマイナス改訂等の影響で、ここ何年間かは病院経営にとって極めて厳しい状況が続いてまいりました。まさに「病院冬の時代」と言われていますが、この状況はこれからも続くことが予想されます。なぜならば、わが国がこれからさらに少子高齢化の時代を迎え、医療費をいかに抑制するかが国にとって重大な課題であるからです。一方で医師不足、看護師不足により地域の医療提供体制の維持が困難となりつつあり、医療崩壊の危機がマスコミにも取り上げられるようになってきました。

地域における 医療の質の確保 と役割

当院のおかれている中東遠地域は全国的にみても医師充足率が最も低い地域です。それにもかかわらずたらい回し等が今のところ大きな問題になっていないのは、当院を含めた医療機関がこれまで何とか連携を保ちながら救急の受け入れ態勢を整えてきたからであります。しかしながら今現在でもこの地域の救急の現場ではさまざまな問題が起こっているのは事実であり、いつこの体制が崩壊するか予断を許さない状況となってきました。大切なことは救急も含めた「地域における医療の質の確保」であり、中東遠地域全体がどのような医療提供体制に向かっていくか、そしてその中で

当院がどのような役割を担っていくかを明確にすることで、地域医療を守り、同時に当院の存在価値を示していくことが必要であります。すなわち国が進めていることとする医療制度改革の方向性と、地域で必要とされる医療に答えることのバランスをとることが、当院が存続していく道であると考えます。

存続をかけた 高度急性期医療 機関との連携

地域において当院に求められていることは、地域の安心・安全への医療面でのサポートであり、そのためには急性期の医療にも慢性期の医療にも対応することが求められます。しかしながら、当院単独で全てのニーズに対応することは困難であります。当院で行わなければならないことは、急性期の医療においては、身近な疾患への標準化された医療の提供、救急の受け入れ、また慢性期の医療においては、治療後の定期的な検査とフォローアップ、急性増悪時の受け入れ、ターミナルケアへの対応などであると考えます。それ以上の高度な医療機器と専門性を要する医療については高度急性期医療機関との連携において達成し、高度急性期の治療が終了した後は当院で継続的な医療を提供すること、また長期入院治療が必要な場合は、療養型病院への橋渡しをすること、さらに病診連携においては、診療所で外来対応が困難な患者さまの受け皿となり、当院でできる医療は提供し、さらに病状

に応じた方向付けをすることなどが当院の果たすべき役割であります。一方、高度急性期病院では、その施設における外来機能も含めた継続的な医療の提供を切り捨てていかなければならない状況にもあります。従って当院の役割は、今後さらに重要となってくるものと思われ、当院においては、やるべきことはより質を高め、一方他の医療機関に任せる事は任せるという姿勢が、当院が存続していく道であり、最終的には経営の改善につながるものと思われます。そのような観点から、本年1月当院は高度急性期病院を目指す磐田市立総合病院との業務提携を結びました。それぞれの役割分担を明確化し、連携をさらに強化することが今後の大きな課題であると考えます。

以上のことから、平成20年度の**キャッチフレーズ**は「**キーワードは連携**」としたいと思います。

医師、看護師を募集しています。

- どんな勤務形態でも相談に応じます。
- 利用者の親戚や近所これらと思う人がいれば、ぜひ、お声をかけてください。
- 連絡先 管理課庶務課
電話 **85-2181**